rather than, more . . .than の機能

田　中　　実

1. はじめに

まず，次のような例を見てみよう。

（1）She is *more* sad *than* she is angry.

a. The degree to which she is sad exceeds the degree to which she is angry.

b. It is *more* true/appropriate to say of her that she is sad *than* that she is angry.　（八木 1987 : 116）

（1 a）の解釈は「彼女の悲しみの程度は怒りの程度に勝っている」という場合で，（1）が彼女の「悲しみ」の程度と「怒り」の程度を比較した文であることを表している。他方，（1 b）の解釈は「彼女については怒っているというよりはむしろ悲しんでいるというほうがぴったりだ」という場合で，（1）が彼女に関して angry ということばよりも sad ということばのほうがぴったりあてはまることを表す，いわゆるメタ比較（metacomparative）であることを示している。

このメタ比較としての解釈が成り立つ場合，八木（1987 : 117）によれば，（2 a, b）のように 2 通りにパラフレーズが可能である。

（2）a. She is *more* sad *than* angry.

b. She is sad *rather than* angry.

では，同じメタ比較としての意味を表す（2 a）と（2 b）との間には違いはないのであろうか。もし，違いがあるとすれば，それはどのようなものなのであろうか。本論では，ネイティブ・チェックも援用しながら，メタ比較の rather

than と more . . . than の機能について考察してみたい。

2. メタ比較の類似構文

メタ比較の機能について考察する前に，厳密な意味でのメタ比較のみを扱い，類似構文を排除する必要から，まず，メタ比較の類似構文について見ておくことにする。

2. 1

次のような例を参照されたい。

（3）The table is longer than it is wide. （Pinkham 1985：151）

Pinkham（1985：151）は，（3）はメタ比較ではなく，measurement compararive（寸法比較）であるとする。すなわち，例えば，テーブルの長さが 4 フィート，幅が 3 フィートである，といったような場合，テーブルの寸法を測る単位である長さと幅は，テーブルという 1 つの物体の 2 つの比率（ratio）を述べている。そこで，（3）は「そのテーブルは幅にくらべて長さのほうが長い」といった意味になる。

この measurement comparative に関する見方は，メタ比較が，例えば，広瀬（1998：24）によれば，同一人物あるいは同一物の 2 つの異なる quality を比べるものである，とする見方とは明らかに異なる点である。

ちなみに，measurement comparative は，Rusiecki（1985：107）によれば，than 節における形容詞は，例えば，long－short, wide－narrow といった，反対語関係にある語のうち無標の語でなければならない。したがって，（4）のような形は容認されない。

（4）*This swimming pool is wider than it is short.

（Rusiecki 1985：107）

しかしながら, than 節の前, すなわち主節では屈折比較級（inflectional comparative）の形容詞は無標のもであっても有標のものであってもかまわない。

次例を参照。

（５）a. This swimming pool is wider than it is long.

b. This swimming pool is shorter than it is wide.

（Rusiecki 1985 : 108）

（5 a, b）はそれぞれ，「このプールは長さにくらべて幅のほうが広い」，「このプールは幅にくらべて長さのほうが短い」といった意味を表す。

2. 2

次のような例を参照されたい。

（６）a. It's hotter than just warm.

b. He's taller than tall.

c. She's wiser than merely clever. （以上，広瀬 1998 : 24）

d. This product is newer than new. （田中 1996 : 172）

（6 a）は「単に暖かいという以上に暑い」，（6 b）は「彼は非常に背が高い」，（6 c）は「彼女は単に賢いという以上だ」，（6 d）は「この製品は最新のものだ」といった意味で，多かれ少なかれ強調構文（emphatic expression）だと考えてよい。

これらがメタ比較と異なる 1 つの顕著な点は，than 節の前，すなわち主節の形容詞が迂言比較級（periphrastic comparative）ではなく，屈折比較級をとっている点である。

2. 3

次に，語（句）同士を比較するという点では，（7 a～c）の構文もメタ比較に似ている。

（７）a. I'm as much sad as I'm angry. （八木 1987 : 118）

b. I ask not so much for facts as for reasons. （広瀬 1998 : 57）

c. He isn't so much ill as depressed. （八木 1987 : 118）

（7 b, c）はそれぞれ，「私は事実というよりはむしろ理由を求めている」，

「私は病んでいるというよりはむしろ落胆している」といった意味の一種のメタ比較としての解釈がなされる。

では，（7 a）はどうであろうか。（7 a）は，例えば，

（8）a. She is as beautiful as her mother.

b. I have as many friends as my sister.

などのような普通の as . . . as 構文とは異なり，同一人物の状態について「怒ってもいるし，それどころか悲しんでもいる」といった意味合いで，やはり（7 b, c）と同様，意味的に一種のメタ比較と考えられるが，本論では（7 a～c）はすべてメタ比較の類似構文とみなす。

以上，2. 1, 2. 2, 2. 3 における各種構文はメタ比較の類似構文とみなし，本論では考察の対象外とする。

3. rather than の機能

メタ比較として各種文法書でとりあげられているのは，more . . . than 形式より rather than 形式が圧倒的に多い。（ちなみに，BNC では rather than 形式が 21, 323 例，more . . . than 形式については甲斐雅之氏の手を煩わしたが，143, 157 例検索される。こうした用例数の違いは，冒頭で述べたように more . . . than 形式は 2 通りにあいまいであって，必ずしもメタ比較の解釈が成立するとは限らないからであろう。その点，rather than 形式はもっぱらメタ比較としての解釈が保証されている。）そこで，ここでは，メタ比較としての rather than が表す機能とはどのようなものか，諸家の見解をとりあげて検討してみたい。

3. 1 Peters（2004）

Peters（2004：459）は，（9 a～c）のような例を挙げている。

（9）a. The family would rather that she played the flute.

b. I get the news from radio *rather than* television.

c. He asked for any posting rather than Brazil.

（9 a）は「家族は彼女にフルートを演奏してもらいたいと思った」という意味で，preference（好み）の機能を表すが，（9 c）は「彼はブラジル以外への転勤を求めた」という意味で，選択の余地を許さない，非常に強い determination（決意）の機能を表すとする。

では，メタ比較の（9 b）はどうであろうか。（9 b）は「ニュースはテレビよりはむしろラジオから得る」という意味だが，これは preference の機能なのか，commitment（こだわり，傾倒，肩入れ）の機能なのか，あいまいで，このあいまいさをなくすためには，preference なら in preference to で，commitment なら instead of でのパラフレーズが必要だとする。

つまり，Peters（2004）は，メタ比較の機能として，preference と commitment を認めているのである。

3. 2　松原（1988）

松原（1988：9）は，（10 a, b）のような例を挙げている。

（10）a. Mary seduced John *rather than* was seduced by him.

b. Mary seduced John *rather than* be seduced by him.

（10 a）では rather than 以下に直接法過去形が用いられており，「メアリーがジョンに誘惑されたというよりはむしろ，メアリーがジョンを誘惑したのである」といった意味で，前言の否定（denial of earlier assertion or assumption）の機能が表されているとする。他方，（10 b）では rather than 以下に仮定法現在形が用いられており，「メアリーはジョンに誘われるよりはむしろ，自らジョンを誘った」といった意味で，preference（好み）の機能が表されているとする。

3. 3　松井（1992）

松井（1992：18）も，松原（1988）と同様，rather than 以下に直接法過去形と仮定法現在形の生じる，（11 a, b）のような例を挙げている。

（11）a. John walked to school *rather than* drove a car.

b. John walked to school *rather than* drive a car.

（11 a）は「ジョンは車でというよりはむしろ，徒歩で学校に通った」という意味で，松原（1988）とはやや異なり，訂正（correction）の機能を表すとする。他方，（11 b）は「ジョンは車でというよりはむしろ，徒歩で学校に通うことを選んだ」という意味で，主語自ら「好んで選択する」（choose to do preferably）機能を表すとする。

こうした（11 b）のような選択（choice）の機能は，（12）のように rather than 以下に -ing 形を置いても同様に表せる。

（12）John walked to school *rather than* driving a car.（松井 1992：18）

ちなみに，（12）は口語表現であるし，（11 b）と同様，rather than 節を前置（preposing）することが可能であるが，（11 a）の場合，それは不可能である。次例を参照。

（13）a.*Rather than drove a car, John walked to school.

b. Rather than drive/driving a car, John walked to school.

（松井 1992：18）

3. 4　松原（1988）と松井（1992）

preference にしろ choice にしろ，「好み」や「選択」の機能を表す場合，主語は有生の（animate）ものでなくてはならないとする点では，両者は共通する。

また，主語が無生の（inanimate）ものである場合，rather than を含む文は，「前言の否定」あるいは「訂正」の機能を表すとする点でも，両者は共通する。次例を参照。

（14）a. . . . so that prepositions assign objective *rather than* oblique Case.（松原 1988：9）

b. It hailed on the field *rather than* rained.（松井 1992：18）

（14 a）は「前置詞は斜格というよりはむしろ，目的格を付与する」，（14

b）は「大地の上には雨というよりはむしろ，ひょうが降ったのだ」という意味である。

もっとも，「前言の否定」「訂正」の機能か，「好み」「選択」の機能かに関しては，あいまいな例も見られる。例えば，（15）は主語が有生で，rather than 以下に仮定法現在形が出現していると見れば，「好み」「選択」の機能を表すと解釈される。他方，to が明示されて wanted が削除されていると見れば，「前言の否定」「訂正」の機能を表すと解釈される。

（15）He wanted to sunbathe *rather than*（to）swim.　（松原 1988：9）

すなわち，（15）が「彼は泳ぐより日光浴がしたかった」といった意味を表すなら，「好み」「選択」の機能が，他方，（15）が「彼は泳ぎたかったのではなく，日光浴がしたかったのだ」といった意味を表すなら，「前言の否定」「訂正」の機能が発揮されていると考えられる。

そこで，本論では以下，松原（1988）の denial of earlier assertion or assumption および preference と，松井（1992）の correction および choice といったメタ比較の機能を統合させて，preference, choice, correction の 3 つとする。

なお，rather than の機能を preference であるとするのは，Quirk *et al*.（1985：1111−2），Biber *et al*.（1999：819, 844）も同様である。

4. rather than と more . . . than の比較

以上のような点を踏まえて，rather than と more . . . than について，ネイティブ・チェックを援用しながら，その機能の違いの有無を明らかにしたい。（なお，ネイティブ・スピーカーは複数のアメリカ人，カナダ人である。）

4. 1　more . . . than

ここで，もう一度，冒頭の（1）（＝(16)）を見てみよう。

（16）Mary is *more* sad *than* she is angry.

a. The degree to which Mary is sad exceeds the degree to which she is angry.

b. It is more true/appropriate to say of Mary that she is sad than that she is angry.

ネイティブ・チェックによれば，文脈次第であるとはいえ，（16）が提示された場合，通例，（16 a）のような解釈が優先的になされるという。その場合，（16 a）の解釈は（17）のような形でも表される。

（17）Mary is expressing both sadness and anger, but the degree of sadness is more.

このような解釈におけるパラフレーズの表現形式は，諸家によってもさまざまで，例えば，Rusiecki（1985：107）は more . . . than のパラフレーズを（18）（19）のような形で挙げている。

（18）I am *more* thirsty *than* I am hungry.＝I am（quite）thirsty but not very hungry.

（19）Dianna is *more* pretty *than*（she is）intelligent.＝Dianna is（quite）pretty but not very intelligent.

つまり，（18）は「私はかなり喉はかわいているが，おなかのほうはそれほどではない」，（19）は「ダイアナはかなりかわいいが，頭のほうはそれほどではない」といった意味を表す。

また，Minton（2004：15）は，（20）のような形でのパラフレーズを挙げている。

（20）He was *more* upset *than* surprised to hear she had left.＝“Upset” is a more suitable word to describe his reaction to her departure than “surprised”（although he was also surprised）

（20）は，「彼女が立ち去ったことへの彼の反応を描くとすれば，彼は驚いてはいるが“surprised”という語よりは“upset”という語が適切だ」ということを表している。

さらに，Ryan（1983：134−5）は，（21 a）は（21 b, c）とパラフレーズ関

係にあるとする。

（21）a. The speech was *more* interesting *than* informative.

b. The speech was interesting *rather than* informative.

c. The speech was interesting instead of being informative.

このうち，（21 c）のパラフレーズ形式は，（9 b）の rather than の commitment としての機能は，instead of でパラフレーズされるとした Peters（2004）の見解に匹敵する。

ちなみに，Celce-Murcia & Larsen-Freeman（1983 : 498）は，more than ＝rather than とパラフレーズした上で，Peter looks for danger *more than* adventure.（ピーターは冒険というよりは危険を求めている）なる例を挙げ，この例は preference の機能を有し，この種のタイプの比較を McCawley（1964）は qualitative comparison（質的比較）と呼んでいると紹介している。

4. 2　more . . . than と rather than

本論では，more . . . than と rather than の機能の違いの有無を問題にしているので，4. 1 で見たようなパラフレーズ関係の問題点がもしあるにしても，ひとまずおいておく。その上で，（21 a）と（21 b）の違いについて見てみることにしよう。

ネイティブ・チェックによると，（21 a）と（21 b）はパラフレーズ関係にあるといえども，同じではないという。すなわち，（21 b）のような X *rather than* Y は，本来，（22 a, b）のような意味を表す。

（22）X rather than Y

a. not Y but X（ネイティブ・アンサー）

b. X, not Y（Huddleston & Pullum 2002 : 1317）

cf. X and not Y（＜They were screaming rather than singing（＝and not）（Burch-field 1996 : 652），（Berube *et al.* 2005 : 395）

（22 b）は Huddleston & Pullum（2002）によるものであるが，（22 a, b）

では（22 b）のほうが（22 a）より適切であると思われる。というのは，X rather than Y の情報構造から考えれば，前に置かれる X よりは後に置かれる Y のほうが高い情報価値（すなわち新情報の機能）を担っていることになり，（22 b）はその情報の流れに沿って X と Y の配置がなされた意味構造になっているからである。

それはともかく，（22 b）は（23 a, b）のいずれかの意味を表すことになる。

（23）a. The speech was not informative but interesting.

b. The speech was interesting, not informative.

（23 a）は「informative ではなく interesting だ」と話し手が断定しており，（23 b）は「interesting なのであって informative ではない」と話し手が断定しているわけだから，いずれも直接的でずばりものをいう形になっている。

それに対して，（21 a）のような more X than Y は，より間接的な形で断定するのを避けるいい方になっている。つまり，（21 a）は「そのスピーチは有益であるというよりはむしろ興味をひかれるものでした」といった意味合いで，（21 b）と比べて，ずばりものをいういい方が避けられる格好になっている。

このことは，Pinkham（1985 : 150）が挙げる（24 a, b）のような，第三者のおかれている状態を表す例を見れば，さらに明確になる。

（24）a. Mary is *more* bored *than* she is hungry.

b. Mary is bored *rather than* hungry.

（24 a, b）の場合，メアリーが「うんざりしている」のか「おなかがすいている」のかは，本来，メアリー自身にしかわからない事柄であるが，話し手がその第三者のメアリーを客観的立場から見て，確信をもって「退屈しているのであって，空腹なのではない」というのなら（24 b）が用いられるであろう。が，他方，他人のことであるから，話し手がそれほど確信がもてなければ，「空腹というより退屈しているのですね」といった感じで（24 a）が用いられ

ると思われる。つまり，（24 b）の自信のあるいい方に比べて，（24 a）はソフトないい方になっており，その分，丁寧な響きをかもし出している。

こうした more . . . than のほうが rather than よりソフトで丁寧な響きになるとする見方は，話し手が相手になんらかの形で直接ものをいうような（25 a, b）のような場合，（25 a）のほうが（25 b）より適切であることからもうかがえる。

（25）a. Your problems are *more* financial *than* it is legal.

b. ?Your problems are financial *rather than* legal.

つまり，（25 a, b）のように「あなたのかかえていらっしゃる問題は法的なものというよりはむしろお金にかかわるものですね」と相手のおかれている窮状を指摘する場合，（25 b）のようにずばりものをいういい方は語用論的に見ても不自然で，（25 b）よりはソフトな響きの（25 a）のほうが好まれるのである。

ちなみに，（21 a, b）（24 a, b）の X と Y はいずれも段階的な（gradable）語であるが，（25 a, b）のそれは非段階な（non-gradable）語であることはいうまでもない。

以上を要するに，rather than と more. . . than の両者はいずれもメタ比較の意味を表すが，rather than は，一方を「否定」し，他方を「選択，肯定，断定」するのに対して，more . . . than は 2 つのうちの一方よりは他方だというにすぎないので，それだけ断定するのを避けたソフトな表現になっている。

このことは，（16）のような more . . . than 構文が，（16 b）のようなメタ比較としての解釈よりは，ネイティブ・スピーカーにとって（16 a），すなわち，2 つのものの程度の比較を表すにすぎない解釈が優先的解釈として受け入れられているという事実によっても首肯されるように思われる。つまり，more . . . than 構文では 2 者の程度の比較が優先され，一方を「否定」し他方を「断定」することは第二義的なのである。他方，rather than 構文は，（22 a, b）に見られるように，もっぱら，一方を「否定」し他方を「断定」すること

を表すことからわかるように，比較的強い表現になっている。

5. おわりに

3 節において，rather than の機能として（26）のようなものがあることを見た。

（26）a. preference
b. commitment
c. correction
d. choice

（26 a～d）のような rather than が表す機能は，rather than と more . . . than がパラフレーズ関係にあって，同じ意味を表すという前提のもとに成り立っている。

本論では，しかしながら，rather than と more . . . than は同じ機能を表す場合もあるが，異なる場合もあり，その場合，（27）のような見方が成り立つとした。

（27）a. rather than は more . . . than より直接的で断定性（assertiveness）の度合いは強い。
b. more . . . than は rather than より間接的で断定性の度合いは弱い。

もちろん，（26 a～d）や（27 a, b）は文脈次第でそうした機能が発揮されるのであり，そのことを考慮すると，文脈次第ではさらなる機能が想定されることになる。

そこで，（28 a～c）のようなネイティブ・スピーカーによる例と，（29 a～c）のような De Devitiis *et al*.（1989： 145, 205−6）からの例を見てみよう。

（28）a. He is *more* energetic *than* athletic.
b. You should take the Hankyu *rather than* JR.

c. He would *rather* go home *than* stay at work.

（29）a. She prefers to work in the morning *rather than* in the afternoon.

b. Would you like a whisky? −No, I'd prefer a soft drink *rather than* anything strong.

c. I'd *rather* have a sandwich *than* a proper meal.

cf. She'd rather you arrived at nine instead of eight o'clock.

まず，（28 a）の more . . . than は，「彼は強健であるというよりはむしろ精力的だ」という意味で，「彼」という人物については athletic という形容より energitic という形容がぴったりであることを述べるメタ比較であると考えられる。では，（28 a）は（26 a～d）のうち，どの機能を担っているのであろうか。

（26 c）の correction　の場合，主語は無生であるのが一般的であった。したがって，（28 a）の more . . . than（と同様にパラフレーズ関係にある rather than も）は correction の機能を有するのではなく，有生主語の「彼」の tendency（傾向，性向，素質）に言及しており，tendency を指す機能を有するものと考えられる。つまり，（28 a）は「彼という人物の素質を述べるなら，それは強健であるというよりはむしろ元気旺盛である」といっているのである。

次に，（28 b）の rather than は，「JR よりはむしろ阪急に乗るほうがいい」といった意味で，rather than の機能は助動詞の should の意味に牽引されて recommendation（助言）になりかわっている。

同様に，（28 c）は「彼は残業よりは帰宅を望んでいる」といった意味で，would rather X than Y　全体が，would の意味に牽引されて desire（願望）の機能を表す文句になっている。

事実，（29 c）（「まともな食事よりはむしろサンドウィッチが食べたい」）の would rather X than Y に関して，De Devitiis *et al*.（1989：206）は，would rather は X と Y の 2 つの選択肢のどちらにしたいかという desire を表す，

と述べている。

ちなみに，X rather than Y が，こうした would rather X than Y の形で用いられることが多いのは，X rather than Y が本来，X であって Y ではない，というように断定性が強いため，would を挿入して，その断定性を弱め，ソフトに響かせたいとする語用論的配慮が働くからであると考えられる。事実，Quirk *et al*.（1985：1112）は，rather than 構文の場合，主節に法助動詞が含まれる傾向がある，と述べているが，そうした理由の 1 つには，断定性を避ける配慮が働いているとしてよいと思われる。（なお，more X than Y の場合，断定性は X rather than Y より弱いが，その事実を補強するため，（30 a～c）のような例では，それぞれ，sound とか think, seem, be likely to といった非断定的な動詞を用いて，文脈上，断定性を避ける配慮がなされている。）

（30）a. Foreigners often think that this kind of recreation sounds *more* like work *than* relaxation.（Bob Weinstein, *The Boston Globe*）

b. Manager Trevor Francis seems *more* puzzled *than* worried.（BNC）

c. Therefore, while there could be casualties, any attack on Israel is likely to be *more* symbolic *than* destructive.（Wordbanks *Online*）

そして，最後に，（29 a, b）に関しては，両者には prefer という動詞が見られることから，両者の rather than の機能は（26 a）の preference であるとしてよい。それぞれ，「彼女は午後よりはむしろ午前中に働くのが好みだ」，「ウイスキーはいかがですか――いえ，アルコールの強いものよりソフトドリンクがいいです」といった意味を表す。

以上のことから，メタ比較における rather than,more . . . than は文脈次第でさまざまな機能を担いうる可能性を秘めているといえる。そこで，ここで，（26 a～d）を（31 a～g）のように改め，rather than と more . . . than の機能として本論では暫定的に 7 つのものを挙げておきたい。

（31）rather than/more . . . than の機能

a. preference

b. commitment

c. correction

d. choice

e. tendency

f. recommendation

g. desire

そして，rather than と more . . . than の違いについては，（27 a, b）を（32）のように改めておくことにする。すなわち，

（32）rather than と more . . . than の機能上の違い

rather than は more . . . than より assertiveness の度合いを強くする。

参考文献

Berube, M. S. *et al*. 2005. *The American Heritage Guide to Contemporary Usage and Style.* Boston, Mass. : Houghton Mifflin.

Biber, D. *et al*. 1999. *Longman Grammar of Spoken and Written English*. London : Longman.

Burchfield, R. W.（ed.）1996. *The New Fowler's Modern English Usage.* Oxford : Clarendon Press.

Celce-Murcia, M. & D. Larsen-Freeman. 1983. *The Grammar Book*. Rowley, Mass. : Newbury House Publishers.

De Devitiis, G. *et al*. 1989. *English Grammar for Communication*. London : Longman.

広瀬浩三．1998.「メタ比較構文とその周辺」『島大言語文化』第 5 号，19−57.

Huddleston, R. & G. K. Pullum. 2002. *The Cambridge Grammar of the English Language.* Cambridge : Cambridge Univ. Press.

松原和馬．1988.「rather than 表現について」『英語青年』8 月号，9.

松井千枝．1992.「rather than と普通の比較表現」『英語青年』2 月号，12.

McCawley, J. D. 1964. “Quantitative and Qualitative Comparison in English” Paper presented at the annual LSA winter meeting.

Minton, T. D. 2004. *English Grammar in Action III.* Tokyo : Kenkyusha.

Momotani, M. 2003. “A Study of Metacomparatives with Special Reference to *More Than* and *Rather Than*” B. A. Thesis.

Peters, P. 2004. *The Cambridge Guide to English Usage.* Cambridge : Cambridge Univ. Press.

Pinkham, J. E. 1985. *The Formation of Comparative Clauses in French and English.* New York : Garland Publishing.

Quirk, R. *et al.* 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language.* London : Longman.

Rusiecki, J. 1985. *Adjectives and Comparison in English.* London : Longman.

Ryan, K. L. 1983. *A Grammar of the English Comparative.* Michigan : University Microfilms International.

田中　実．1996.『英語形容詞の口語用法小事典』東京：大修館書店.

八木孝夫．1987.『新英文法選書第 7 巻　程度表現と比較構造』東京：大修館書店.

――文学部教授――